

# 失語症学

[講義] 第2学年 後期 必修 2単位

《担当者名》若松千裕 wakamatsu@hoku-iryo-u.ac.jp

## 【概要】

失語症学 で学習した知識をもとに、言語聴覚士として基本となる失語症の評価法・診断法・治療法の方法論を身につける。

## 【学修目標】

<一般目標>

失語症の評価診断と治療を行うために、失語症の評価診断、治療法を学び、失語症者へのリハビリテーションを理解する。

<行動目標>

1. 失語症によって生じる症状を解釈できる。
2. 主要な失語症タイプの言語症状を列挙できる。
3. 失語症のタイプ分類を含め、評価・診断の基準を説明できる。
4. 失語症の主要な症状と病巣との関連を説明できる。
5. 失語症の症状に応じた治療法について説明できる。
6. 失語症の回復・予後について説明できる。
7. ICFに基づいて、急性期・回復期・生活期の言語聴覚士の対応方法を説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 失語症における言語聴覚療法	失語症の言語聴覚療法の流れについて学ぶ。失語症状とタイプ分類を学ぶ。	若松千裕
2	失語症の評価診断	非流暢性発話の分析方法を学ぶ。	若松千裕
3	失語症の評価診断	流暢性発話の分析方法を学ぶ。	若松千裕
4 ) 5	失語症の評価診断	復唱障害と理解障害の分析方法を学ぶ。読み書き障害の分析方法を学ぶ。	若松千裕
6	失語症の評価診断	鑑別診断が必要な言語障害について学ぶ。言語障害と病巣との関係を学ぶ。	若松千裕
7	失語症の治療	失語症治療の過程・理論を学ぶ。失語症の回復・予後予測について学ぶ。刺激法、Deblocking Methodを学ぶ。	若松千裕
8	失語症の治療	機能再編成法、実用的コミュニケーション方法、重度失語症訓練、構文訓練、発語失行の訓練、CI言語療法、非侵襲性脳刺激について学ぶ。	若松千裕
9 ) 11	失語症の治療	認知神経心理学的分析法を学ぶ。	若松千裕
12 ) 15	失語症の治療	失語症の治療の急性期から生活期までの流れを学ぶ。	若松千裕

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

レポート30% 定期試験（筆記試験）70%

レポートや試験については、良かった点、誤った点について、全体あるいは個別にフィードバックする。

## 【教科書】

菅野 倫子 / 津田 哲也 編 「標準言語聴覚障害学 失語症学 第4版」 医学書院 2025年

**【備考】**

Google Classroomを使用して課題の提示と提出を行う。

**【学修の準備】**

授業前に授業内容を確認して、教科書と配布資料からキーワードを中心に読んでおくこと(80分)。

授業後は、授業の内容を解釈・整理し、その内容を教科書と配布資料、授業中のメモで確認し、講義内容を理解する。(80分)。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP2. 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

**【実務経験】**

若松千裕(言語聴覚士)

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での臨床経験を活かし、失語症の診断・評価、治療・訓練に関する基本的知識および実践について講義する。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している